

江戸っ子は五月の鯉の吹き流し

さわやかな風をはらんで、鯉のぼりが空に泳ぐ季節です。男の子がいる家で、端午の節句に鯉のぼりをあげる風習は、江戸中期から行われてきました。「江戸っ子は五月(さつき)の鯉の吹き流し」ということわざは、下の句に「口先ばかり、はらわたなし」がついた狂歌にもとづいています。夏目漱石は長男純一の初節句に門下の野上豊一郎からお祝いをもらい、礼状に「端午の贈物有難く存じ候。薫風南より来って日々無腸の鯉をふくらます。天下の新緑又愁人の目をよるこぼしむ」と書いています。「無腸の鯉」は「はらわたなし」からの連想でしょう。

「江戸っ子は五月の鯉の吹き流し」はポンポンとぞんざいな口をきいても、腹に悪意はないカラッとした江戸っ子気質をプラスにとらえたものと、能弁でも内容がない軽薄なマイナス面をついたことにも使われます。私たちも口先ばかりで内容がないといわれることのないよう、知識を蓄えたり行動で示したりしましょう。金商図書館も応援します。

図書委員がすすめる

読んで得するテッパン本

『浜村渚の計算ノート』 青柳碧人著

とてもわかりやすく、数学との出会いがうまくいかなかった人でも、主人公を通して数学を見つめ直すことができます。テポよく読みすすめることができるライトノベルです。(31H)

『ジックス』 まなべゆきこ著

おせっかいな留学生のジホがスマイルが苦手な楓と初恋の相手雄介の心許ない恋を韓国式のジックスで応援します。せつない恋と国境を越えた友情が描かれています。(31H)

『さおだけ屋はなぜ潰れないのか』 山田真哉著

商業高校生が知っておきたいビジネスのことを身近な疑問からやさしく教えてください。会計が嫌い、会計が苦手、会計を学んでも意味がないと思っている人にお勧めです。(32H)

旧図書館の中庭に、地球上最古の花木といわれている木蓮の木がありました。歴史ある金商高校に学ぶみなさんが、心も知識も大きく美しく成長することを願って、図書館だより「木蓮(もくれん)」をお届けします。

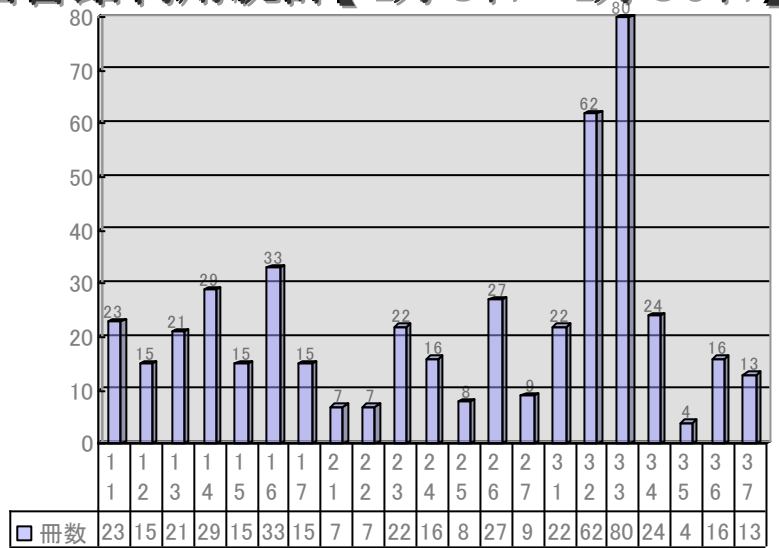
新着雑誌

『News がわかる』



●1カ月のニュースをまとめて解説する情報誌。難しいニュースをやさしく解説。

図書館利用統計【4月8日~4月30日】



今年度初めての月間貸し出し総数は468冊でした。開館日数は15日で、1日平均にすると約31冊の貸し出しです。学年別では3年生が231冊、2年生が96冊で、1年生は151冊でした。入館者の総数は1,874人で、1日平均約125人の利用でした。図書館での授業は20時間ありました。4月は貸し出し0のクラスがないことと、1年生の貸し出しが多いことがとても嬉しいことでした！5月のギャラリー展示は部活動応援特集です。是非図書館に来てください！

ありがとう

図書の寄贈がありました！
*株川村様より
『北国新聞縮刷版1月号』

河村社長をはじめ社員の皆様の約半数が金商の卒業生という会社からの寄贈です。

お知らせ

- ★6月11日(木)文化教室終了後うつのみや書店にて選書会をおこないます！
- ★6月19日(金)放課後、図書館文化講話「POPのチカラ」を開催します！
希望者は図書館まで！